

第2学年 道徳学習指導案

に組 男子18名 女子17名 計35名

指導者 益満 陽平

1 主題名 自分のもの

1-(1) 健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを整え、わがままをしないで、規則正しい生活をする。

2 主題について

(1) 主題の位置とねらい

この期の子どもたちは、毎日の生活の中で、健康や安全に留意すること、物や金銭を無駄にしないこと、身の回りを整理整頓することの大切さを知るとともに、自分の生活を明るくすることにつながる規則正しい生活を大切にしようと努力している。しかし、これらのことを生活の中に生かすことができないこともある。特に、身の回りの自分の物の扱いについては、自己中心的な考えや思慮不足、怠惰な感情などから、粗末な扱いをしてしまい、大切にできないことがある。

このようなことから、この期の子どもたちに、身の回りの自分の物を粗末に扱っている時の気持ちに気付かせると共に、物も人と同じように気持ちも考えてやさしく扱うことやそのことによって、自分自身の明るく、快適な生活につながることを理解させ、進んで物を大切にしていこうとする態度を育てる必要がある。

そこで、本主題では、身の回りの自分の物を粗末に扱っている場面で生じる心情や心情の変化を、自らの生活場面での内面と重ね合わせて類推しなら追究する活動を通して、身の回りの自分の物に対して、人と同じように気持ちを考えて行動することが、大切にすることになることを理解し、身の回りの自分の物を進んで大切にしていこうとする心情を育てることをねらいとしている。さらには、身の回りの自分の物を進んで大切にしていこうとする生き方は、自分の生活を明るく、気持ちよく過ごすことにつながることを実感し、これからの生活の中で生かしていこうとする意欲を高めていくこともねらいとしている。

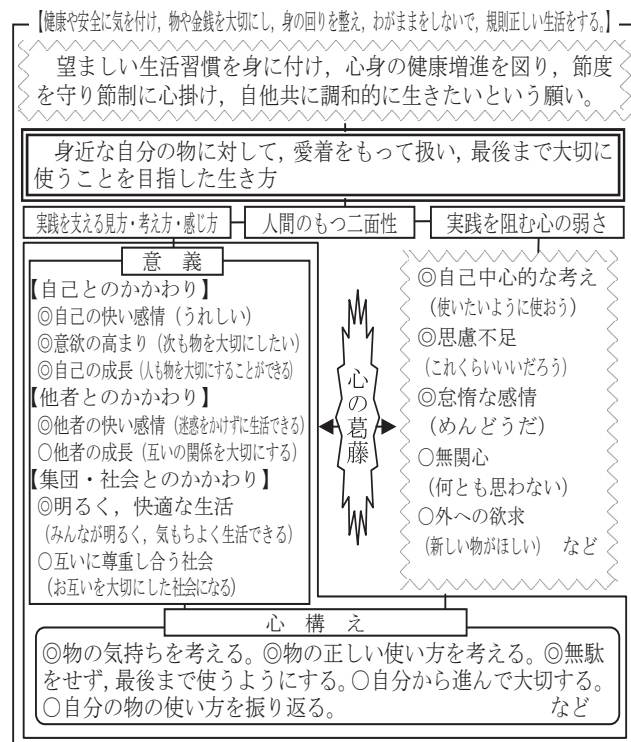
このような学習を通して身に付けた見方・考え方・感じ方は、自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度ある生き方を追究していく学習へと発展していくことになる。

(2) 指導の基本的な立場

身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて大切に扱うことについて、人間のもつ二面性に着目して人間理解を深めるという立場から分析すると右の図のようになる。

身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて大切に扱うこととは、物には価値があることを理解し、節度を守りつつ、物への愛着をもって使うこと、そのことによって生活が安定し、明るく快適な生活を送ることと捉えることができる。

ここでは、望ましい生活習慣を身に付け、心身の健康増進を図り、節度を守り節制に心掛け、調和のある生き方をしたいという願いを基に、身近な自分の物に対して、愛着をもって扱い、最後まで大切に使うことを目指した生き方とし、その実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）と実践を阻む心の弱



さの両面から、人間理解を深めていくことになる。

具体的には、身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて大切に扱うことで、自他共に快い感情になり、さらには、みんなが明るく気持ちよく生活を送ることができることなどの意義を理解させる。しかし、その一方で自己中心的な考えや思慮不足、怠惰な感情などの心の弱さから、なかなか望ましい生き方が実践できないことがあることにも気付かせる。そして、それらの心の弱さと望ましい生き方との間に起こる心の葛藤を乗り越えていくためには、物の気持ちを考える、物の正しい使い方を考える、無駄をせず、最後まで使うようにする、自分から進んで大切にする、自分の物の使い方を振り返るなどが大切であることも理解させる。

このような内容にかかわる生き方への共感を高めるために、本主題では、読み物資料「ノートのひこうき」（学研教育みらい）を取り上げることにした。この資料は次のような粗筋である。

主人公のゆきおが、新しく購入したノートを丁寧に使い始めたため、ノートの紙は大変喜んでいった。ところが、友達の紙飛行機がうらやましくなったゆきおは、ノートの数枚を破り、紙飛行機を作って教室の窓から飛ばしてしまう。粗末に扱われたノートの紙が悲しむという内容である。

この資料を扱うに際し、話の内容の理解を深め、主人公の心情に十分に触れさせるために、録音CDや一枚絵を活用する。また、子どもたちの生活場面を振り返らせ、そこでの心情と主人公との心情を重ね合わせて類推させるようにし、主人公の心情や心情の変化に自我関与させる。

具体的には、資料一読後の感想から、当初は丁寧に使っていたノートを粗末に扱ってしまう主人公と徐々に粗末に扱われるノートのそれぞれの心情やその変化を考える中で、身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて大切に扱うことにかかわる意義・心構え、心の弱さを多面的に追究させる。その際、重点的に扱う意義・心構え、心の弱さと関係付けて追究できるようにするために、ここでの道徳的価値を生活の中で生かしていくことの大切さや難しさ、その中で起こる心の葛藤を乗り越えることが、明るく快適な生活を送ることにつながるといったよさについて、深く広く追究させるようにする。さらには、自分の考えをまとめていく中で、学習を通して変わったり、確かになったりした自分の考えやその理由、それにつながる生活場面を意識させることで、よりよい実践への意欲や期待感を高めさせる。

このような過程を重視する学習を通して得られる能力や態度は、身近な自分の物に対して、愛着をもって扱い、最後まで大切に使うことを目指した生き方をしていこうとする喜びや楽しさとなり、そのことが豊かな自分の生き方を追究し続けることにつながると思う。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちの身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて大切に扱うことにかかわる経験やその時の心情、実践を支える見方・考え方・感じ方（意義や心構え）等についての認識は以下のとおりである。

〔表1〕 大切に扱うことができた経験（総反応数37）とその時の感情（総反応数36）

経験	反応数(人)	その時の感情	反応数(人)
文房具（ノート、鉛筆、消しゴム等）	25	長くきれいに、気持ちよく使いたい	18
ランドセル	7	使い方や直し方を考えた	9
教科書	3	買ってくれた人の気持ちを考えた	5
遊び道具（ボール、おもちゃ等）	2	物の気持ちを考えた	4

〔表2〕 大切に扱うことができなかった時の心情（総反応数34）

心情	反応数(人)	心情	反応数(人)
自己中心的な考え（使い方をよく考えない、おもしろそう等）	19	無関心（何にも思わない）	2
思慮不足（これくらいでいいだろう）	3	他への欲求（新しいものがほしい）	1
怠惰な感情（めんどうだ）	3	（できなかったことがない）	9

〔表3〕 実践を支える見方・考え方・感じ方（意義）についての認識（総反応数47）

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
対自己		対他者		対集団・社会	
うれしい気持ちになる	16	うれしい気持ちになる	13	明るく気持ちよく生活ができる	7
次も物を大切に使っていきたい	4	人の物も大切に使っていきたい	2	お互いを大切にしながら生活することができる	1
人も物も大切にできるように	3	助け合って生活できるように	1		

[表4] 実践を支える見方・考え方・感じ方（心構え）についての認識 総反応数（42）

見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)	見方・考え方・感じ方	反応数(人)
正しく、丁寧に使う	17	自分から進んで大切にする	7	買ってくれた人の気持ちを考える	5
最後まで使う	8	物の気持ちを考える	5		

[表1]の「長くきれいに、気持ちよく使いたい」といった感情が多いことから、身の回りの自分の物を大切に扱うことのよさは理解し、行動した経験が多いことが考えられる。その反面、[表1]の「物の気持ちを考えた」の少なさや[表2]の「使い方をよく考えずに使う」といった感情から、物に対して、人と同じように気持ちを考えられずに、大切に扱うことができなかったりすることがあることにも気づいている。また、身の回りの自分の物への扱いについて、自分の生活の中で大切にできなかった経験を想起できなかったり、扱う際の心情を特に意識したことがなかったりする子どもがいることがわかる。さらに、[表3]から、自分だけでなく、他者や集団に対しても「うれしい気持ちで生活する」「気持ちよく生活できる」など、物を大切に扱うことで、人々の良好な関係につながるという意義を感じている子どもが多いことがわかる。しかし、[表4]から物にかかわっている人々を含めて、物を人と同じように気持ちを考えていくことの大切さを感じている子どもは少ない。

これらの実態から、「使い方をよく考えずに使う」といった心の弱さや「物の気持ちを考える」「無駄をせず、最後まで使うようにする」などの心構えや「自分もみんなも明るく、気持ちよく生活することができる」といった意義を関係付けて考えさせたりしながら、身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて、大切に扱うこととはどういうことを深く追究させる必要がある。

一方、道徳の時間において、本学級の子どもたちは、問題意識をもって学習に取り組む姿は見られるが、互いの考えを比較し、関係付けながら、道徳的価値に対する見方・考え方・感じ方（以後、見方等）を十分に深め、広げるまでに至っていない。そこで、多様な道徳的価値に対する見方等に触れさせていく際に、それらを視覚的にとらえられるようにするために、表情絵や板書の構成等を効果的に活用していく。さらに、学習を通して、自分自身の道徳的価値に対する見方等がどのように変わったか、理由は何かなどを明確にさせてまとめていく必要がある。

(4) 指導上の留意点

本主題の指導を展開するにあたっては、身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて、大切に扱うことにかかわる生き方のよさの実感を深める中で、子どもたちが、これまでの生活の中で体験して感じてきた道徳的価値にかかわる意識が、これからの生き方へと連続し、発展していくようにしたい。

ア 切実な問題意識をもたせるために、これまでの体験場面を振り返らせ、身の回りの自分の物を大切にしたい経験とできなかった際の心情とを対比させ、その疑問や矛盾から子ども一人一人が考えていきたい問題を設定させるようにする。

イ 主人公の心情や心情の変化に共感させたり、ここでの道徳的価値について見方・考え方・感じ方を十分に深めたり広げたりさせるために、ゆきおの自己中心的な感情によって、ノートが粗末に扱われた場面に焦点化し、追究させる。その際、道徳的価値に対する見方等を多様に表出させるために、役割演技を設定し、対話活動を行う。そして、ゆきおとノートの紙の互いの心情の関係性を視覚的にとらえられるように表情絵を使ったり、板書を構造的に表したりしながら、「物の気持ちを考えること」「自分もみんなも明るく、気持ちよく生活することができる」といった見方等と関係付けて追究させたりしていく。

ウ この内容にかかわる自己の生き方についての考えを深め、これからの生活とのつながりを感じ、これから生かしていこうとする意欲を高めさせるために、自分の生き方を振り返らせる。その際は、資料中の主人公の考えや友だちの考え等、自分の見方等が広がったり、深まったりした理由を明確にさせる。さらに、これからの生活で大切にしたい気持ちや考えと、それを生かせるような生活場面の二つの視点で考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。

3 本 時

(1) ねらい

- ア 身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて大切に扱うことにかかわる自分自身の生き方を見つめ、進んで身の回りの自分の物を大切にしていこうとする気持ちを高めることができる。
- イ 身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて大切に扱うことにかかわる見方・考え方・感じ方を他者とのかかわりの中で、自らの生活場面での内面と重ね合わせて類推しながら深めたり広げたりすることができる。
- ウ 身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて大切に扱うことについて、「物の気持ちを考える」、「自分もみんなも明るく、気持ちよく生活することができる」といった気持ちや考えを自分の生き方のかかわりを通して理解することができる。

(2) 本時の展開に当たって

本時では、思考の高まりを目的とした学び合いが重要だと考える。そこで、主人公に尋ねたいことを問い、役割演技を行ったり、表情絵を活用したりしながら、自己中心的な感情、物の気持ちを考えることでうれしい気持ちになるなどの見方等を表出させ、さらに深めたり広げたりしていく。

(3) 実 際

過程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
気付く	1 考えていきたい問題に気付く。 	(分) 7	○ 切実な問題意識をもたせるために、身の回りの自分の物で大切にしている物とそれを大切にできなかった時の心情を発表させ、それらの矛盾から問題意識をもたせる。
さぐる	2 資料「ノートのひこうき」を読み、考えていきたい問題について話し合う。 (1) ゆきおの心情、心情の変化について感想をもち、追究していきたい場面を選択する。 (2) ゆきおのノートを粗末に扱った気持ちや考えとノートの紙の気持ちについて話し合う。 	20	○ 資料を感動的に読み取らせ、主人公の心情への共感を高めるために、資料を一読する前に、ゆきおがノートを丁寧に扱っている場面を提示し、「みんなも似た経験はあるかな。」と問う。 ⑤ 「ゆきおくんに聞いてみたいことは、ありますか。」 ○ 自らの体験場面で重ね合わせて類推させながら、道徳的価値に対する見方等を深めたり広げたりさせるために、ゆきおに問いたいことを話し合い、その後、ゆきお役やノートの紙役を設定した役割演技を通して実際に、それぞれの心情を追究させる。
見つける	【意 義】うれしい気持ちになる→次も大切にしようと思う→他の人に迷惑にならない→人も物も大切にできる→明るく気持ちよく生活できる 【心構え】物の気持ちを考える。物の正しい使い方を考える。無駄をせず、最後まで使うようにする。自分から進んで大切に使う。自分の物の使い方を振り返る。など	8	○ 役割演技やその後の対話活動で表出した多様な見方等に触れ、互いに共有しやすくさせるために、物を大切にできている時、粗末に扱っている時のゆきおとノートの紙の心情を両者の表情絵や距離感で表すように板書を工夫していく。 ⑤ 「人も物もにっこりするには、どうすればいいのかな。」
深める	(3) 主人公の生き方を振り返り、自分と友だちの考えを比べ、感じたことや考えたことを発表し合う。 	8	○ 望ましい生き方を実践するのは難しいが、道徳的価値を大切に、よりよく生活したいという気持ちをさらに高めるために、「物の気持ちを考える」等の考えとうれしい気持ちになることとを関係付けて考えさせる。
見通す	3 学習したことを振り返り、自分の考えていきたい問題に対して、自分なりの考えをまとめる。 	8	○ 学んだことを通して、自分なりの考えをまとめさせる際には、「物を大切に扱える」と、「うれしい気持ちになる」「人も物も大切にできる」「みんなが気持ちよく生活できる」といった今後の生活の中で大切にしたい気持ちや考え、生活の中で生かせそうな場面を考えさせ、見方等の変容やその要因を意識させるようにする。
	4 身の回りの自分の物に対して、気持ちを考えて大切に扱うことにかかわる教師の話を聞く。	2	○ 子どもたちの課題が連続・発展し、実践化が図られるようにするために、学習してきたことを価値付けながら話しを行う。